

行政視察等報告書

平成29年8月28日

境港市議会
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう
代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成29年8月21日（月）～平成29年8月23日（水）
2 視察等先及び内容	平成29年8月21日（月） 東京都武蔵村山市本町1丁目1-1 電話 042-564-0788 武蔵村山市役所にて ○視察目的 「コミュニティ・スクール及び小中一貫校教育」について 平成29年8月22日（火） 東京都中央区新川1-1-17 リバーサイド茅場町3階 NPO法人日本ビーチ文化振興協会にて 電話 03-3552-1220 ○視察目的 「海辺の賢明利用」について 平成29年8月23日（水） 東京都渋谷区本町3-53-3 電話 03-5365-8500 医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 ○視察目的 「先進的なリハビリテーションの取り組み」について
3 視察等議員	米村 一三、平松 謙治、景山 憲、岡空 研二、終 康弘、 森岡 俊夫、濱田 佳尚
4 総経費	合計（7名） 590,850円 （一人当たり 84,407円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

平成 29 年 8 月 21 日（月）午後 3 時から

報告者 米村 一三

視察目的：「コミュニティ・スクール及び小中一貫校教育」について

視察先：東京都武蔵村山市本町1丁目1-1

武蔵村山市役所

電話 042-564-0788

説明者：武蔵村山市教育委員会 教育部 学校教育担当部長 佐藤 敏数 氏

同上

指導・教育センター担当課長 勝山 朗 氏

【内 容】

●コミュニティ・スクールについて

1. 導入までの経過

武蔵村山市においては、平成 17 年度に小・中一貫校検討委員会の場で小中一貫校への学校運営協議会設置が検討された。平成 20 年度に武蔵村山市立小中一貫校カリキュラム作成委員会より、コミュニティ・スクール導入について検討するための委員会設置が提言された。

平成 21 年度には、コミュニティ・スクール導入検討委員会を設置し、武蔵村山市のコミュニティ・スクール構想のグランドデザインと村山学園の導入具体策が報告された。この報告を受けて市内全校にこの制度指定ができるよう、設置意向調査を取りまとめ、「武蔵村山市コミュニティ・スクール推進計画」を策定した。

平成 23 年の村山学園を最初に、次年度は 1 小学校、平成 25 年度は 6 小中学校、平成 26 年に 5 小中学校に導入し、すべての小中学校がコミュニティ・スクールを導入済みとなっている。

2. 学校運営協議会の基本的な考え方

詳細は「学校運営協議会規則」等で規定されているが、以下の基本的な考え方に基づいて設置されている。

- 1) 学校運営協議会の名称は教育委員会に届けた上で、他の名称を用いることが可能。
- 2) 構成員及び委員数は、指定学校に在籍する児童、生徒の保護者、校区の住民、その学校の教職員、学識経験者等で構成され、20 名以内とする。
- 3) 報酬は月額 1,500 円
- 4) 委員の公募制度も導入可能。
- 5) 協議会は必要に応じて部会等を設定することが可能。

●小中一貫校の導入について

1. 導入の経緯

- 1) 平成 13 年度に設置された「幼（保）・小・中学校の連携の在り方検討委員会」の検

討報告で、武蔵村山市の小中一貫構想が示された。

- 2) 翌14年に設置された「武蔵村山市立学校特色化推進プラン検討委員会」で第4小学校と第2中学校を母体とする小中一貫校開校の構想が示された。
- 3) 平成17年度設置の「武蔵村山市立小・中一貫校検討委員会」報告により、開設される小・中一貫校が市内全校への小中連携教育の発信校とされた。
- 4) 平成19年度に、市内全校から選出された各教科代表による「武蔵村山市立小・中一貫校カリキュラム作成委員会」が設置された。
- 5) 平成22年4月、多摩地区初の施設一体型小・中一貫校村山学園が開校する。
- 6) 平成27年、「武蔵村山市立小・中一貫校の在り方検討委員会」が、市内全校が中学校校区を基盤とした小中一貫教育の充実を図るよう提言した。
- 7) 平成28年4月、施設隣接型小・中一貫校大南学園を開校する。
- 8) 平成28年10月には、「第11回小・中一貫教育全国サミットを誘致し、2日間で全国より延べ2万人の参加者を見た。

2. 武蔵村山市が実施している小中一貫校の方式

1) 施設一体型小中一貫校 村山学園 (校長1名、副校長3名)

もともと隣接していた、第4小学校と第2中学校を7メートルの廊下でつなぐ。平成22年に開校した多摩地区初の一貫校である。背景には荒れた中学校をどうにかしたいとの思惑もあった。実施後は不登校率10%程度から都内平均の3~4%までに改善されたとの報告があった。

平成23年度：コミュニティ・スクール指定

2) 施設隣接型小中一貫校 大南学園 (校長2名、副校長3名)

第7小学校と第4中学校を、学校運営協議会の発案で市内2校目の小中一貫校となる。

「知の統合」、「心の統合」、「形の統合」を図る。

平成25年度：コミュニティ・スクール指定

3) 施設分離型・校区一体型 ⇒ 小中連携から小中一貫教育を

- ・第1中学校と第1、第9小学校
- ・第3中学校と第3、雷塚小学校

●感想

説明を頂く中で、キーワードと強く感じたのは、「コミュニティ・スクール」、「小中一貫校」のいずれの制度を導入するにあたって、学校、保護者、地域が求める児童・生徒像をどのようにまとめ挙げて共通認識した上で、事業に向かうのが最大のポイントであるとの言葉であった。

平成 29 年 8 月 22 日 (火) 午後 3 時から

報告者 森岡 俊夫

視察目的：「海辺の賢明利用」について

視察先：東京都中央区新川 1-1-17 リバーサイド茅場町 3 階

NPO 法人日本ビーチ文化振興協会

電話 03-3552-1220

説明者：事務局長兼副会長 吉澤 裕子 氏

広報部長 廣瀬 千賀子 氏

●視察先に選定した理由

日本屈指の海岸線を誇る弓ヶ浜半島を水木しげるロードと並ぶ境港市の観光地として活用できないか、全国の先進地の事例を基にその可能性について伺った。

●視察の概要

(1) 海辺の利活用による地域活性化策について

特定非営利活動法人 日本ビーチ文化振興協会 吉澤裕子副会長によれば、全国各地の砂浜は、海水浴場としての利用頻度は年々減少傾向にあるが、その代わりにビーチスポーツ・マリンスポーツが盛んに行われるようになってきている。また、年々増加している大型クルーズ船の寄港を好機と捕えてビーチを活用している事例もある。

(2) 海辺を利用したスポーツ大会等の種類とその状況について

ビーチを活用したスポーツといえばバレーボール、サッカーといったイメージがあるが、今後は、誰もが参加できるウォーキング大会やラジオ体操、学校の運動会などの場としての活用が増えてくる。

先進事例としては、

- ①港区では、「はだしで健康づくり」を目的としてPTAが主催する「お台場ビーチ運動会」が開催されており、ゴムボートリレー、ビーチフラッグス、ビーサン飛ばし等の競技や地元の海洋少年団も加わった活動として海浜清掃にも取り組んでいる。
- ②愛知県知多市では、ビーチバレーボールの草大会（市民参加）、ちびっこ運動会を開催することで海浜利用者が 15,000 人から 150,000 人に増えた。
- ③京丹後市は、サンセットビーチランを開催し、地元の漁業関係者と行政地が一体となって一過性でなく長く続くイベントで地元を盛り上げている。

(3) マリンスポーツの全国大会、世界大会の誘致について

当協会では、港区お台場でのアジアビーチゲームズを誘致している。トップアスリートによる競技もあるが、青少年の愛郷心の育成等も目的としている。

境港市の現状を聞けば、近くに大型クルーズ船の岸壁、ヨット、ボートの専用マリーナもあり、ビーチバレーボールの全国大会の実績もある。また、ウォーキング大会も開催されており、併せてサイクリングロードも建設中である。これらのインフラ設備や既存の大

会を活用すれば、海辺を一年中楽しく人が集える地域として活性化する可能性は十分にあると思う。

地元の地域資源を活かすために「海辺の利活用について」のシンポジウムを開催するなどして、行政とスポーツ関係者、漁業者、地域住民が一体となって取り組む必要がある。

平成 29 年 8 月 23 日（水）午前 10 時から

報告者 米村 一三

視察目的：「先進的なリハビリテーションの取り組み」について

視察先：東京都渋谷区本町 3-53-3

医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 電話 03-5365-8500

説明者：サポート部 部長 加納 知明 氏

マネジャー 廣岡 彩美 氏

●初台リハビリテーション病院を視察した理由

少子高齢化の洗礼を受けている境港市にとって、大きな課題の一つに健康年齢の延伸があると考える。高齢化の進展によって、医療・介護の必要な市民は年々増大し、この費用負担が大きく市民にのしかかっている。

「初台リハビリテーション病院」はTV番組「カンブリア宮殿」に取り上げられるくらい、患者のリハビリに効果を上げる病院として知られている。初めて訪れた病院は、ゆったりとした構造でオフィスの雰囲気を持つ施設であった。

●初台リハビリテーション病院の概要

この施設は、医療法人社団輝生会が運営する5つの施設の内の一つである。輝生会の名付けた理由は患者さんに輝く人生を取り戻してもらうとの意味であるとのこと。このグループの常勤職員は1,166名である。

視察した施設は、2002年6月に開設され4病棟173床（個室53室、4人床30室）で常勤職員425名の規模である。通常の施設に比較すると多い職員数となっている。その理由は、すべての業務を自前で行い、外注は一切してないとのことである。

患者さんをお世話するのではなく、患者さんが日常の活動を在宅でできるように時間を惜しまず患者さんに寄り添う仕組みとなっている。食事も不便であっても必ず食堂まで足を運び、自分で食べるよう努力を積み重ねることによって、自宅復帰の患者数が70%にも達している。

【そのためには美味しい食事が提供できるよう、各フロアの食堂にはパントリーが付随して作られている。】

1日のリハビリ時間も3時間を費やすと共に、すべての生活活動をリハビリと捉え丁寧に看護がされている。

●この施設の回復期リハビリ病棟としての使命として以下の項目に取り組んでいる。

- 1) 急性期病院からの迅速な受け入れ
- 2) 亜急性期の十分な医学的管理
- 3) 必要かつ十分な集中的リハ医療サービス提供 ← 1日3時間のリハビリ
- 4) ADL（日常生活動作）を改善し、可能な限り家庭復帰を支援
- 5) 在宅ケアへのソフトランディング

これらのことに取り組むには、多くの経費を要するが、一般の患者さんには通常の費用の他は一切徴収していない。これを実現するカギは個室費用の設定にある。また、他の病院や施設との連携を強化して、初期の入院引き受けを迅速化し、退院した患者のその後のリハビリを継続できるよう図っている。さらに人材確保の点でも専門学校との連絡を密にし、採用した若者の育成にも配慮されている。

●初台リハビリテーション病院に学ぶこと

多くの課題に立ち向かいながら、この施設が果たさなければならない業務を、明確な形で遂行するには、院長が掲げられた理念がこの組織全体に行き渡っているからであろうと感じたところである。境港市にとっても、今後の医療・介護に取り組む姿勢として学ぶものが大きかった。

【参考 医療法人社団輝生会の基本理念】

- 「人間の尊厳」の保持
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「ノーマライゼーション」の実現
- 「情報」の開示